

おめでとう

お誕生日	谷川 治君	1949.8.18
	影島益江さん	8.20
入会記念日	大貫隆弘君	2008.8.19

スマイルボックス

- 谷川 治君：誕生日のお祝いありがとうございます。
内田文喬君・大貫隆弘君：入会記念日です。
山本倫弘君：林理事長 卓話よろしくお願ひします。
山本倫弘君：みなさまの御協力のおかげで、修正出席率100%を達成しました。
清水 学君：大塩さんインターアクト年次大会報告有難うございます。
伊東哲夫君：林様を卓話にお招きしました。
大野数芳君：韓国公州RC尹(ユン)のさんより地震のお見舞いの電話がありました。皆様に宜しくとのことでした。
大野数芳君：倉田先生頑張っして下さい。
坂倉儀郎君：道部さん、増強月間での卓話有難うございました。
鈴木克彦君：倉田雅年先生をよろしく。
鈴木幸彦君：修正出席率100%有難うございました。
ゴルフ部長山口和也君：8/15ゴルフミニコンペやりました。残金です。
Bテーブル：8月4日テーブル会残金です。
Eテーブル：テーブル会残金です。

卓話

若山牧水について

社団法人沼津牧水会理事長 林 茂樹様



幾山河こえさりゆかば寂しさのはてなむ国ぞけふも旅ゆく
白鳥は哀しからずや空の青海の青にも染まずただよふ
白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけり
知らない人はないと言ってもよいほど広く愛誦されている
牧水の歌である。

歌人若山牧水は、明治十八年宮崎県東郷町に医師の長男として生れ、文学を志して早稲田大学に学び、調べの美しい数々の短歌、詩情豊かな紀行文や随筆を発表して、人々に感動を与えた。

牧水は、満四十三歳の若さで没したが、生涯に八千余首にも及ぶ短歌を残した。その内の何首かを紹介する。

「幾山河」「白鳥」と同時期の青春時代の歌で、恋愛の歓喜と悲哀とを詠んだ歌

けふもまたこころの鉦をうち鳴しうち鳴しつづあくがれて行く
山を見よ山に日は照る海を見よ海に日は照るいざ唇を君
いざ行かむ行きてまだ見ぬ山を見よこのさびしさに君は耐ふるや
ああ接吻海そのままに日は行かず鳥翔ひながら死せ果てよいま
海底に眼のなき魚の棲むといふ眼の無き魚の恋しかりけり
牧水は、恋愛の破綻から、甲州や信州へ放浪の旅に出

る。小諸で詠んだ歌

かたはらに秋ぐさの花かたるらくほろびしものはなつかしきかな
なお、「白玉の歌」は、この時に詠んだ歌である。

その後、牧水は結婚し、子供にも恵まれ、歌集を次々と出版して歌人としての名声を博したが、東京での生活に疲れ、大正九年八月、沼津の風土とりわけ千本松原の景観に魅せられ、一家を挙げて沼津へ移住してきた。活発に文学活動を展開するかたわら、千本松原の伐採に反対する市民運動の先頭にも立った。自然保護運動のさきがけといつてもよいだろう。

沼津で詠んだ歌から七首

海見ると登る香貫の低山の小松が原ゆ富士のよく見ゆ
香貫山いただきに来て吾子とあそび久しく居れば富士晴れにけり
松原のしげみゆ見れば松が枝に木がくり見えてたかき富士が嶺
駿河なる沼津より見れば富士が嶺の前に垣なせる愛鷹の山
愛鷹の根に湧く雲をあした見つゆふべみつ夏のをはりと思ふ
千よづの松にまじらふこの松のひたに真直ぐにひたに真青き
日に三度来り来飽かぬ松原の松のすがたの静かなるかも
沼津から富士の裾野へ旅に出て詠んだ歌から二首
なびき寄る雲のすがたのやはらかきけふ富士が嶺の夕まぐれかな
富士が嶺や裾野に來り仰ぐときいよよ親しき山にぞありける
「私は山桜の花を好む。すべての花のうち、最もこれを愛する」と伊豆湯ヶ島温泉で詠んだ「山桜の歌」の中から二首
うすべにに葉はいちはやく萌えいでて咲かむとすなり山桜花
瀬瀬走るやまめうぐひのうろくづの美しき春の山ざくら花
牧水といえ酒を連想する人が多いだろう。三百首以上ある酒の歌の中から三首紹介する。

かんがへて飲みはじめたる一合の二合の酒の夏のゆふぐれ
それほどにうまきかと人の問ひたらばなにと答へむこの酒のあぢ
人の世にたのしみ多し然れども酒なしにしてなにのたのしみ
ところで、牧水の本名は「繁」で、「牧水」という雅号を延岡中学在学中から用いていた。それは最愛の母マキの名を表す「牧」と故郷坪谷川の溪流と尾鈴山に降る雨とを表す「水」からとったと自ら回想している。牧水が母を故郷を詠んだ歌から二首

日向の国むら立つ山のひと山に住む母恋し秋晴れの日や
ふるさとの尾鈴の山のかなしさよ秋もかすみのたなびきて居り
最後に「やよ少年たちよ」の詞書きをそえて詠んだ九首の歌の中から三首

若竹の伸びゆくごとく子ども等よ真直ぐにのばせ身をたましひを
うつしく清き思ひ出とどめおかむ願ひを持ちて今をすぞせよ
老いゆきてかへらぬものを父母の老いゆくすがた見守れや子等
牧水は、旅を愛し、自然を愛し、人を愛した。全国各地を訪ね、その土地を愛で、好きなお酒を飲みながら、その土地の人々と心ゆくまで語り合い、そして詠った。

牧水は、昭和三年沼津千本松原の家で没し、千本松原にゆかりの深い千本山乗運寺に埋葬され、翌年全国で最初の牧水歌碑が千本浜公園に建立された(現在、牧水歌碑は全国に三百以上ある)。

昭和六十二年には「沼津市若山牧水記念館」が千本松原の一角に建てられ、多くの人々が牧水を偲んで訪れてくれている。